

# 事業の概況

## 預金積金の状況 (預金積金残高の推移)

預金積金の期末残高は、1兆989億円となり前年度から29億円増加しました。(増加率0.27%)

内訳は、要払性預金が64億円の増加、定期性預金が34億円の減少となりました。

また、公金預金が50億円の増加となりました。

預金積金残高 1兆989億円

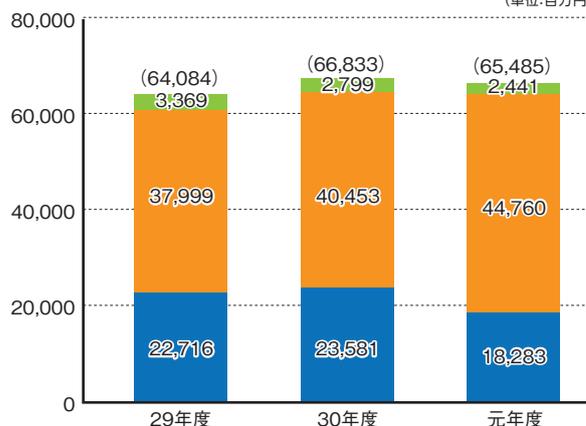


## 預かり資産の状況

国債・地方債、投資信託、個人年金保険等を合算した預かり資産残高は654億円となりました。

金融商品の品揃え充実やマネーアドバイザースタッフ(金融商品専門担当者)の育成・配置により、今後もお客さまのニーズに合致した各種金融商品の販売充実に努めてまいります。

■ 投資信託 ■ 個人年金保険 ■ 国債・地方債  
( )は預かり資産合計  
(単位:百万円)



## 貸出金の状況 (貸出金残高の推移)

貸出金は、個人事業者向け貸出が1億円減少、個人向け貸出が7億円減少となりましたが、法人(公金等含む)向け貸出が62億円増加し、期末残高は3,777億円となり前年度から53億円増加しました。(増加率1.44%)

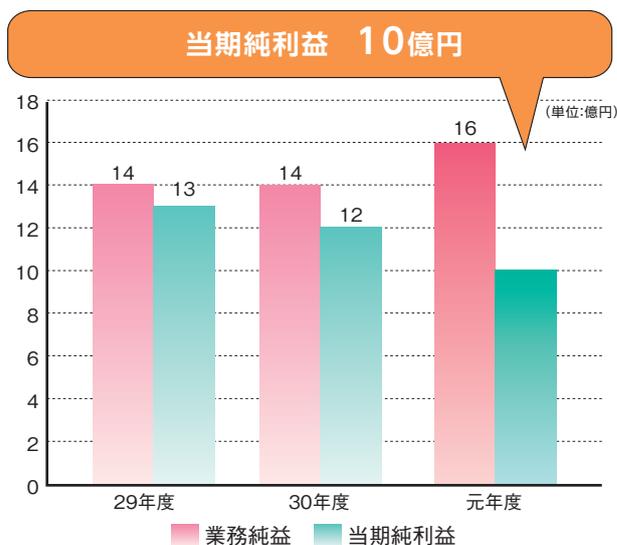
また、事業資金融資取引先数は127先の増加となりました。

貸出金残高 3,777億円



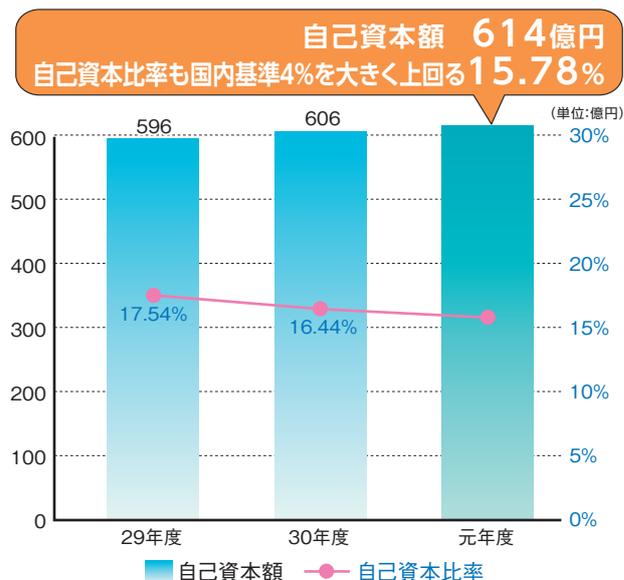
## 収益の状況（業務純益と当期純利益の推移）

金融機関の営業利益に相当する利益をあらわす業務純益は前期比1億88百万円増加し16億87百万円となりましたが、最終の税引後利益をあらわす当期純利益は1億53百万円減益の10億57百万円となりました。



## 自己資本比率の状況（自己資本比率等の推移）

単体自己資本比率は、15.78%（前期比0.66ポイント低下）となり、国内基準4%を大きく上回り当金庫の経営が健全かつ安全であることを示しています。安定した利益確保の継続により、リスクへの備えとしての自己資本額は614億円にのびります。



## 金融再生法に基づく開示債権残高・構成比

金融再生法上の不良債権比率は0.14ポイント低下し2.61%となりました。

今期も償却とともに適正な引当を実施しており、厚い内部留保とあわせて当金庫の不良債権に対する備えは万全です。

